

あと数日で今年も終わりますね。みなさんいかがお過ごしですか？一年ぶりの皆さん、今年もY子の生存証明（！？）「Y子通信」をお送りします。一年ぶりでない皆さん、ご存知の通り、今年もY子は健康優良社会人です。

そんな健康なY子ですが、一つだけ問題が……。それはズバリ「骨」。骨密度です。去年の測定の時も、「同世代の90%の骨密度」だったY子。食生活を改善することもなく臨んだ今年の骨密度測定の結果は……。去年と変わらず90%……。そこで、先生からボソツと衝撃の一言。

「あなた、寝たきり老人の道、まっしぐらよ。」

でもでも、そんなこと言われたって、牛乳は大好きで、酪農家の皆様に感謝状を貰っちゃうんじゃないかと思っただけ毎日飲んでるし、乳製品も海藻も大好物。小魚は毎日食べないけれど、骨が丈夫な人だって毎日食べないはず……。そんな中、今度は献血しようとしたところ、問診票

おめでとう

高校時代の友達Jが、2月に結婚。場所は舞浜シエラトン。式はクリスタルチャペルで。お相手は高校時代の陸上部の先輩Sさんです。なんと新婦のドレスのサイズは5号。昔から細かったけれど、さらに細く、きれいになったJに、Y子もうつとり。

この日、人生で初めて、結婚式のスピーチをしたY子。とても緊張する反面、嬉しいものですね。友人代表で挨拶するのは一人だけ。それを任せてもらえるというのは光栄なことですよ。そして、結婚式のもう一つの楽しみは、なんとと言っても同級生との再会。薬剤師・看護師・証券会社など

など、様々な道に進んだ同級生と話をするのは、とても楽しかったです。

そんな再会の機会を作ってくれたJ、ありがとう。ホントにおめでとう。

Y子、旅のつれ日記

ナマステ

OLの楽しみといえば、何でしょう？

バブルの時代も今も変わらず、海外旅行です。

去年のタイに続き、今年も五連を利用して海外に行つて来ました。皆さん、覚えていますか？去年も解説をつけましたが、「これん」とは、年に一度取ることでできる五連休の通称です。去年アジアデビューを果たしたY子。今年は、とてもお世話になっている会社の先輩Nさんと、ちょっとディープな南アジアインド。行って参りました！

飛ぶか？AI

旅の初日、二月22日は快晴。Nさんの旦那様の車で成田空港へ。旦那様？と思つたアナタ、そう、Nさんは美しい奥様なのです。成田からエアインディ

ア(AI)でデリーに向かったY子達。飛ばないことの方が多いため使うのは避けましょう」とT海上デリー支店に駐在していた方から忠告を受けていたのですが、貧乏旅行に選択肢なし……。奇妙な乗客が数人いたのと、經由便で若干疲れたことを除けば、何事もなく、機内食のカレーも美味しく、快適な空の旅でした。

降り立ったインドは二月なので暑くもなく、インド臭くもない……。インドを感じさせてくれたものを挙げておけば、迎えに来たガイドさんのターバンかな？(ただターバンをしているのは人口の2%のシク



お幸せに

教徒だけ。)このガイドさん、後々相当「酒&女」好きであることが発覚します。

11/23@ニュー

この季節、デリーの朝は、薄手の上着だとちよっと肌寒さを感じます。

この日はデリーの市内観光で、クトゥブミナール、フマユーン廟、ラージガート(ガンジーのお墓)、インド門、オールドデリーを見学。オールドデリーは、人も多く、Nさんが痴漢に遭遇するなど、「ゴミゴミとした感じがありますが、他の場所はインドとは思えないほど整然としています。物乞いをしている人は沢山いたけれど、思っていたよりは野良牛も少なく、「人生観が変わってしまうほどの何か」を持った国には思えませんでした。ごく普通のアジアの国であるというのが初日の感想です。唯一驚いたのは、空気が汚いこと。泥遊びをしたわけでもないのに、一日過ごすだけで、洋服や鼻の中、爪の間は真っ黒です。

忙しいY子たちは、夕方



列車での夕食のカレー

には早速コルカタに向けて出発します(このデリー発・ラージダニーエクスプレス)。ラージダニーエクスプレスは、インドの新幹線といわれている列車。本日に早いのかどうかは怪しいところですが……コルカタ到着は翌朝10:45で、この時間30分の旅です。Y子は実は夜行列車大好き。これまで数々の国の夜行を制覇！一晩分の宿泊費が浮くし、目覚めると、車窓には前日とは全く違う風景が朝日に照らされて広がっていて、それを見る瞬間がとても好きです。残念ながらラージダニーは窓がないに等しく、車窓を眺めることは出来ませんでした……それでも夜行は楽しい……さて、車内のサービスですが、発車してすぐに一階のミネラルウォーターとシ

ーツが配られます。その時に行われるのが、ベジタリアンチェック。「ベジタリアンベジ？」と聞かれ、「ノンベジ」と答えると、だいたいいちキンカレーにありつけます。食事は、

18:30 軽食

20:00 トマトスープ

20:30 夕食

21:00 デザート

といった順番でやってきます。また、紅茶がいつでも飲めるように、一人一人にティーバックが数個とお湯が水筒ごと配られます。Y子が忘れられないのは、トマトスープ。その後ホテルなどで食べたスープより、この列車の方が断然美味しい！と思ったY子。夕食のチキンカレーもデザートのアイスも美味しく大満足

つとお話をしていたので、シャイなインド人は全く話に参加する様子なし。でも、チラチラこちらを見ているので、明らかに興味があるよね！というのがNさんとY子の共通見解。そこでNさんの秘策「ワンポイントヒンディー語講座」が登場。「旅の指差し会話帳」という本をNさんが広げ、「私はです」などなど、ヒンディー語の練習を始めたのです！それが、シャイなインド人を話に参加させる秘策だったとは、Y子は後々知りました……。そのNさんの秘策に見事に乗ってくれたシャイなインド人(シュレンダーさん)。「本を貸してみる」と言

つて自分の手元に本を持っていき、熟読。そしてヒンディー語をいろいろと教えてくれました。彼はその本がかなり気に入った様子。寝心地は最高でY子熟睡

30分遅れで到着。いよいよコルカタ！駅を出ると、デリーでは想像もつかないような町の活気に驚きます。おびただしい数の黄色いタクシヤ、車線などお構いなしに入り乱れて走っている車、商店街を行き交う人など、ここに来てやっと、「インドに来た！」と実感して、若干興奮気味のY子。Y子が想像していたインドがコルカタにありました！！

ホテルでの昼食はもちろんなカレー。このホテルのカレー、辛さがなくてスパイスで絶品！！今回の旅のZooカレーです。余談ですが、カレーを運んでくるおリクシヤと路面電車

さて、午後はマザーハウスでボランテニア登録です。マザーハウスですが、大通りに面したところにあるものの、建物の中は、とても気分の落ち着く独特の雰囲気があります。二階には礼拝堂、一階にはマザーテレサのお墓があり、中庭のような涼しげな空間が広がっています。ボランテニアするにあたり、ちよっとした登録のシステムがあり、小規模のオリエンテーションもあるのです。この日、登録に来た日本人はY子達の

Y子達が乗ったのは、4人のコンパルトメント寝台。同室者はシャイでまじめそんなヒンズー教徒と自称政治家のイスラム教徒。最初は自称政治家とちよ

朝食後、シュレンダーさんとのヒンディー語講座をしながら、コルカタへの到着を待ちました。

11/24@コルカタ



コルカタ市内(旧称カルカッタ)



マザーハウスの入り口

マザーハウス

マザーハウスとはマザーテレサの活動の拠点となっていた建物のこと。実際の活動は、コルカタ市内に散らばる各施設、「死を待つ人の家(カリーガート)」「老人・薄弱者の家」「女性の家」「孤児の家(シシュバパン)」「障害者の家」や、市外のハンセン病患者のための施設などで行われる。孤児のための高空教室もある。

この機会にマザーテレサについて学んじゃおうと思っただアナタに..... 「マザーテレサ」 講談社・沖守弘

他に4人。日本人が結構いるというのにNさんもY子もびっくり

いくつかある施設のどの施設でボランティアをするかを決めて登録をすると、簡単な許可証をシスターから頂きます。NさんとY子は一日や二日じゃ、カリーガートなどのボランティアは到底できないと思っただため、シシュバパンを希望。いよいよ明日から念願のボランティアです!!

11/25@コルカタ

マザーハウスのミサに参加するため、5:00頃起床。ホテルを出ると、まだ薄暗

朝食の様子、ボランティアの交流の場



い道で、既にジャバジャバと水浴びをしている人たちがいます。Y子はその様子を手早く隠し撮り

さて、門が開まる寸前の5:30にマザーハウスに到着

7:00までの一時間、白地に青いラインが入ったサリーを着ているシスターと、真っ白なサリーを着ているシスター。見習いが、みんなそ

ろって一心に祈りを捧げます。早朝で、車のクラクションもそれほどうるさくないため、窓から入ってくる朝日とシスターの歌声が美しく響き、雑多なコルカタに居ることを忘れてしまいうそです。

ミサが終わる7:30頃になると、大勢のボランティアがやってきます。中庭で、マザーハウスから振舞われ

るパンとバナナとチャイ(甘いミルクティー)で朝食をとりながら仲間と語り、各施設へ連れ立ってボランティアに行くのです。



マザーテレサのお墓

その日、NさんとY子が目指した施設は、マザーハウスから歩いて行かれるシシュバパン(孤児の家)。

施設では1歳〜3歳の子どもが10人以上いて、ボランティアが来るのを待ち構えています。その日のボランティアは、Y子達のほかに北欧や北米から来ている人が8人くらい。ベビーベットのシーツのセット、靴下の交換、洗濯などの仕事もあり、主な仕事は、

見ました。緑色の目って本当にきれいですよ

食事を食べさせること、子供たちと遊ぶこと。子供たちは人見知りをするせず、両手を広げて、Y子やNさんに近づいてきて、倒れこむように抱きついてきます。これがカワイイ!! 時には足の上に2〜3人乗っかってきたりして、室内でも室外でも、遊ぶには、若干体力が必要...。この時、Y子は初めて腫が緑色の子を

さて、遊ぶには体力が必要ですが、食事を食べさせるには高度なテクニクが必要です。落ち着いて座ってくれないし、ご飯を口に持って行っても、あまり食べようとしてくれない。インドのシスターが「ボス」と言いながら食べさせているのを横目で見て、NさんとY子は「ボス」が「座りなさい!」という意味だと解釈。「ボス!ボス!」と言ってご飯を口に運んでいくが、やっぱりうまくいかず...。そしてインド人シスターは何やら笑っている様子。Y子「ボス」って本当はどういう意味なの? 午前中の活動が終わる12:00迄に

食べさせられないと、タイムリミット! NさんもY子も結局完食させることができず、インド人シスターにバトンタッチ。シスターは、次から次へと子供の口にご飯を放り込み、瞬間にお皿をきれいにしてしまいます。オ・ミ・ゴト。お昼休みには、サダルストリート方面へお散歩。Y子は方向音痴のためナビはNさんにお任せ。サダルストリートとはコルカタの有名な安宿街で、長期滞在している人は、ほぼ全員サダルの住人です。マザーハウスからは歩いて30分くらい。両側に商店が並び細い路地を抜けて行くとサダルストリートに出ます。車のクラクションが絶え間なく鳴り響き、車と歩行者とリクシャーが細い道を入り乱れて通り抜けていく様子はまさに「生活臭い」と形容するに相応しい光景です。サダルストリート周辺は日本人も多いせいか、うるさいインド人も多く、NさんとY子についてきては「案内する」とか何とか。調子のいいことを言っている



歌を歌っても外から入ってくる車のクラクションがうるさく、殆ど聞こえない状態ですが…。

この日は、本当にカワイイ子供達の姿が印象的な一日でした。子供好きにはたまらないボランティアです。

11/26@エカタ

昨日と同様、ミサに参加するため5:00に起床。夕方の電車でコルカタを離れるため、チェックアウトをしてからマザーハウスへ。今

日もしもパンとバナナの朝食。昨日の朝食の時に、「毎日カリーガートに行っている」と言っていた優しい日本人を狙い撃ちしよう！ということ

は！！と思いついてカリーガートに行くことに決定

飛び乗ります。結構エキサイティング
カリーガートは、死を間近に控えた人たち（全部で20人以上はいたはず）が静かに最期を迎えるための施設。ここでは、女性の面倒は女性ボランティアが、男性の面倒は男性がみています。

食器も分業で洗っていきます。感染する病気の人もいるので、強めの洗剤で最初と一緒に洗濯をしていたNさん。途中から姿が見えないと思ったら、ボランティアの長の指令により昼食用のジャガイモの皮むきをしていました。茹でたじゃがいもを泥水の中で皮をむき、そのままマッシュしてしまふ様子を目の当たりにしたNさんとY子。もしY子達がこんな食べたら、即座にお腹を壊しそう…。その後、2:00くらいから、チャイとビスケットが振舞われるティータイム

と聞いていました。Y子はお話を聞いたり出来ましたが、下の世話までは手を出せず…。技術がないというところもありますが、正直なところ気持ちがついていかない…。申し訳ない思いながらもベテランボランティアの助けを呼んで、Y子…逃げる



右がシュレンダーさん、そしてNさん、左の二人が心配してくれたオジサマ

カリーガートの屋根の上の洗濯物



で話がまとまっていたNさんとY子。「一緒に連れてって〜」とお願ひし、いざカリーガートへ

この施設でY子が最も面白いと思うのは、洗濯。朝一番に、患者さんたちにご飯を食べさせてあげた後、洗濯が始まります。毎日出る膨大な量のシャツや洋服などの洗濯物を、3時間近くかけて洗います。大きいものは、男性二人がかりで洗い、洋服などは足で踏んで洗います。濯ぎ担当、絞り担当など20人以上の人が分業で次々と洗い上げ、カリーガートのトタン屋根の上

既に何ヶ月も滞在している人、NさんとY子のように短期間の人など、様々な人と話をするのはとても面白いです。ティータイムが終わると昼食を食べさせてあげて、その食器を洗って、午前中の仕事は終わり。洗

ここでの仕事は本当に肉体労働。終わった時、さすがに気分になります。この日は日本人のボランティア仲間と地下鉄でサダルストリート近辺まで戻り、中華料理のお店に行きました。「チョウメン」いうあんかけ焼きそばを食べ、お腹いっぱい 幸せいっぱい

出てくる食事。唯一違ったのはアイスの味。帰りのアイスは何とも形容しがたいインド味…。初めてマズイものに出会いました。

マザーハウスからバスで20分ほどです。通り過ぎそうになるバスに向かつて、カリーガート?と行き先を確認し「YES」ってことになると、バスに

洗いは絞りと干し担当。晴れた日に、屋根の上に洗濯物を干すことがこんなに気持ちいいことだとは、考えてもみませんでした。(真夏だったら厳しいかも…) 同時進行で、朝食の時に使った

午前の仕事は終わり。洗い物の合間にも、手がある時は、患者さん達の話相手になってあげたり、オイルマッサージをしてあげたりします。Nさんもある女性が歌ってくれる歌をすつ

出来ることならもつと長く滞在して、シシユババンにも行きたかったけれど…何てつたって短期間であり。コルカタに別れを告げ、2:00のラジダニーで、ヒンズー教の聖地、ベナレスへ。そして、コルカタ駅では衝撃的な再会が…。なんと、行きの列車で同室だったシュレンダーさんに駅で

さて、4人のコンパルトメントのはずなのに、隣のコンパルトメントから、いつの間にか人が移ってきたり、別の車両からシュレンダーさんが出張ヒンディー語講座に来てくれたりと、にわかに込み合ってきたY子たちのコンパルトメント。どうやらみんなY子たちに興味があったようで、そのうちNさんは質問攻めに…。特に、NさんとY子が、途中のベナレスの駅に夜中の0:30下車するというこ



とを知って、
 「夜中に若い？娘？が二人
 であんな駅に降り立って、
 その後どうするんだ？？夜
 は危険だし、街までは遠い
 ぞ〜」
 「あ、でもガイドさんが迎
 えに来てくれるから」
 「そのガイドの顔は知って
 るのか？」
 「知らない」
 「じゃあ、どうやってその
 ガイドが本物のガイドだと
 判断するんだ？」
 「ガイドさんは私たちの名
 前を知ってるはず」
 「そうか…。絶対自分たち
 から名乗っちゃダメだぞ！

まず、私の名前は何でしょ
 う？と聞くんだ。そして、
 どこのホテルに行くか、ど
 この旅行会社を通してきて
 いるのか？全部相手に言わ
 せるんだぞ〜」

と本気で心配してくれて、
 更にはベナレスでの観光ブ
 ランまで立ててくれる親切
 なインドのおじさまたち。
 ただ、インド人がそれ程ま
 でに心配するベナレスとい
 う駅、本当に大丈夫なの
 ？と段々不安に…。そん
 な彼らも23:00ころには寝
 静まり、NさんとY子は、
 乗り過ごしてはいけないと
 襲い掛かる睡魔と必死に格
 闘。早起きが続き

ていたため、睡魔
 との戦いは本当に
 厳しいものでし
 た…。
 そして予定到着
 時刻を過ぎること
 30分。午前一時に、
 何とか乗り過ごさ
 ずにベナレスで下
 車。この駅で降り
 た人は皆無。おじ
 さま達の心配をよ
 そに、NさんとY
 子の名前を呼びな

がら近づいてくるガイドさ
 んは明らかに本物。本物の
 ガイドさんは開口一番
 「5年ガイドをやっている
 がこんな時間に来た人は初
 めてだ」

と呆れぎみ。駅を出たところ
 には、大勢の人と牛が入
 り乱れて寝ていて、沢木耕
 太郎さんの深夜特急に描写
 されている光景さながらで
 した。その間を通り抜け、
 迎えの車でホテルへ。寝た
 のは2:00すぎですが、翌日
 はガンジス川の日の出を見
 なければいけないY子たち。
 起床はやっぱり5:00です

5:00に起きるはずだった
 NさんとY子。目覚し時計
 は鳴ったはずなのに（もし
 かして鳴っていないかったの
 か？）起きたら9:00過ぎ。
 急いで支度をして、ホテル
 を出発。待ってましたあ！
 とばかりに、ホテルの前で
 待つオートリクシャーのお
 兄ちゃんに声をかけられた
 Y子たち。
 「ガンガー（ガンジス川）
 までのルビードラッグ？」
 早くしないと日が昇りきつ

11/27@ベナレス

てしまうので、こちらにも
 選択の余地なし…。しか
 し、お姉さんたちを甘く
 見てもらっちゃ困ります
 地球の歩き方で、相場は調
 査済。というところで、初め

と対面。何とか日が昇りき
 る前の美しいガンガーを見
 ることが出来ました。同封
 のカードを見て下さいね
 ガンガーには、日本語を操
 る、怪しいような、怪しく
 ないようなインド人が沢山
 「日本語検定一級の試験を
 今度受けます。ただ日本語
 が喋りたいだけ。お金はい
 らない。見たいところがあ
 ればガイドします。」
 という誠実そうな青年から、
 「ミルダケ??」
 とふてくされ気味で捨て台
 詞を吐く、露店のお姉さん、

「ハブラシ・スブラシ」
 と言ってインド式歯ブラシ
 を売りつけようとしてくる
 青年などなど、とにかく
 日本人をカモにしようとし
 ているのでは？と疑われる
 人が次々に近寄ってきます。
 NさんとY子は、まず小船
 に乗って、一日に何十体も
 の遺体が焼かれるという、
 有名な火葬場のあるところ
 までガンガーを下りました。
 火葬場で見たのは、川で遺
 体を清める遺族、遺体を焼
 く炎や煙、火葬が終わった
 場所で犬や牛が灰をあさつ
 て骨を探している姿などで
 した。テレビで見るとより衝
 撃的でないのは、雰囲気
 感じながら見ているからで
 しょうか？その場所です
 ばらく火葬の様子を眺めて
 いたY子たち。脇では、イ
 ンドの青年が、頼んでもい
 ないのに一方的に火葬の様
 子や決まりなどを丁寧に解
 説してくれました。ここ
 らがこの青年、何だか雲行
 きが怪しげ…。青年は、
 「この近くの『死を待つ人
 の家』でボランティアをし
 ているので見にくるか？」
 と言い出します。見に行く

「君達は薪を何キロチャリテ
 イーするんだ??？」
 と詰め寄ってきます。
 「お金はない。」
 と言つても

「お金じゃなくて薪を何キロ
 チャリティーするんだ？」
 と堂々巡り。そういえば、
 「一体の遺体を焼くのに
 200キロの薪が必要で、1キロ
 の薪が200〜300ルピーす
 る（ルピー=25円）と、
 青年はさつき火葬場で解説
 していました。青年の話は
 ためになる話も多かったけ
 れど、これは明らかに詐欺
 行為。にわかガイドをして
 くれたことには感謝しつづ
 け、お姉さんたちを甘く見
 てはいけな〜い！第二弾！
 というところで、「お金はな
 い」ときつぱり断り、その
 場を立ち去ろうとしたNさ
 んとY子。しかし、ここで
 本性を表した詐欺青年。
 「そんな不道德なことをし
 ているとタタリがおきる
 ぞ！このフトドキモノ！カ

「お金はない。」
 と言つても

だけなら…。と行ってみる
 と、そこは「死を待つ人の
 家」とはほど遠い、ただの
 ホームレスの溜まり場らし
 き場所。青年は



ペナレスの路地 野良牛に注意！！

ルマのタタリじゃ〜。」「
と、本当にタタリがおきて
しまつのではないかと思
うほど罵られる……。あと
からNさんが地球の歩き方
読んでいると……、ナン
ツ「こんな詐欺に気がつ
て」というようなコラムの
欄に、全く同じ手口が掲載
されていて、NさんもY子
も大爆笑

さて、何とかその場を逃
げ出したY子たちは、早朝
小船に乗った場所まで川沿
いの道を歩いて戻ります。
その途中、Y子は水のきれ
いそうなところを選んで、
念願の「足だけ沐浴」を果
たします。そしてペナレス
のマザーハウスを訪問。こ
こはNさんの高校時代のお
友達のMツチが、度々ボ
ランティアをしている場所
コルカタの施設とは違い、

規模が小さくボランティア
もいなかつたのですが、気
持ちが何となく落ち着くよ
うな、マザーハウスが持つ
独自の雰囲気はコルカタと
似ています。マザーハウス
を後にしたNさんとY子は、
川沿いから一本入った、中
東の雰囲気漂う路地(野
良牛が前や後ろからやつて
くるので危険!)を、リク
シャー乗り場までゆっくり

歩きました。リクシャー乗
り場ではまたお得意の値段
交渉。20ルピアと50ルピアと
か、やや高め値段で言い
寄ってきますが、行きより
高い値段で帰ることなど論
外。この時、Nさんにはあ
る作戦が……。それは:「私
たち、20ルピアしか持つて
いません攻撃!」 お財布
の中に20ルピアだけを入
れ、それを見せながら「ホ
ントに20ルピアしかない
の」と言うのです。この作
戦で交渉成立!! サイクル
リクシャーの親切なお兄さ
んが20ルピアでホテルま
で運んでくれました。風を
切って走るサイクルリクシ
ャーは乗り心地最高!!

レス空港から国内線でデリ
ーへ。国内線であつても三
重くらいの荷物チェック&
ボディーチェックがあり、警
戒は厳重。そしてたつた一
時間のフライトなのに、機
内食はガッツリ一食
これまで睡眠不足を取り
返すべく、この日は熟睡。

11/28@IN

この日は朝からお買い物。
デリーは、うるさく付きま
とつてくるインド人が非常
に多く、とても歩きにくい
街ですが、やむなし……。Y
子は、「コンソートブレ
イス」というデリーで一番栄
えている場所の周辺の路上
で、民芸品を売っているオ
バサンと値段交渉。「20ル
ピア」と言ってきたものを
「200ルピアじゃないと買
わない」と言つて通り過ぎ
るふりをしてみると、追
かけてきて「250ルピア
?」と言つてくるので
す。こちらは、「やつぱり
200ルピアじゃないと……」
と断る……。そんな
ことを繰り返して、ドンド
ン値切っていくのです。こ
こでは「ナイナイ攻撃」は

あまり効き目がなかつたも
の、ねばつた末、このオ
バサンからきれいな刺繍を
200ルピアで手に入れたY
子でした。Nさんも、別の
お土産やさんでかなり食
下がつたのですが、その
店員はなかなか手ごわく、
一歩も譲らず……。Nさんが
「じゃあいい」と言つて帰
ろうとしても、追いかけて
くる様子もなし……。ほぼ
相手の言い値で買うという
悔しい結果になりました。

午後、T海上のデリー
駐在のNさんにお会いして、
インドのマック(結構普通)
で昼食をした後、スツチー
御用達のお土産やさんなど
に連れて行ってもらい、夜
はグラントハイヤットでゴ
ージャスな夕食をご馳走し
て頂きました。駐在の方
にとっては、バスや電車に
乗つたというNさんとY子
の旅がとても信じ難いら
しく、相当ビックリしてい
た様子。その様子をY子達
がビックリ。駐在員の生活
って……やつぱりスゴイのね……。

11/29@AN

片道4時間かかるアグラへ
同時に今日は、帰国の日
もあります。帰りの便は
200ですが、間に合うのか
どうか一抹の不安が……。
不安は的中。ナント行き
だけで5時間もかかつてし
まいます。タージマハルも
アグラ城も素敵だったの
ですが、帰りの飛行機のこと
が気になってあまり観光に
も身が入らず……。ところ
で、タージマハルでは、N
さんとY子「超」人気者で、
隠し撮りされたり、「一緒に
写真撮つて下さい」ってお
願いされたりと、それはそ
れは大変な騒ぎでした

さて、アグラを出たのは
15:00。時間がないため、帰
り道はずつと、まるでゲー
ムセンターにいるかのよう
なスリリングなドライブで
した。車線をあちこちに変
えたり、時にはちよつとぶ
つかつてみたり……。そんな
中でも、NさんとY子は立
ち寄つたサービスエリアで、
「カーマストラ(インド愛
の経典)日本語版」を見つ
けて大はしゃぎ。更に、ガ
イドさんは酒(ラム酒)を
買い込んできて、3人は車



世界遺産タージマハル

中で酒盛りすることに……。
「デヘヘ」と言いなが
らお酒を注ぐ姿は、エロお
やじ以外の何者でもありま
せんでした。
何とか間に合つた帰りの
飛行機で、ちよつと酔いが
まわつたY子でした。

編集後記

インドの雰囲気、伝わつたで
しょうか?
今年も物騒なニュースが多
い一年でしたね。来年こそは、
世界が少しずつ平和になつて
ほしいものです。今年お世話に
なつた皆さん、本当に本当にあ
りがとうございました。来年も
よろしく願います